ちりめんとごぼうとにんじん

昔々、横手四日町のたち町（市日）に毎日野菜を売りにくるばさまがおったと。ばさまは毎日、荷車にごぼうやにんじん、大根、芹なんかの折々の野菜を積んできてはたち町で売って、昼になれば空になった荷車をとことこと引いて帰るのが一日のワッパカであったと。たまには帰りの車に町で買った石鹸や反物を積んで帰ることもあったと。

ある日、ばさまは町にかたづいている娘のところさ寄るべと、ある露地を通りかかったんだと。したら、向こうから大したきれいだ嫁こ来たんだと。着物もきれいだちりめんでいい香がしてあったんだと。

ばさまがずうっと見ていると、嫁こはあたりを見て、誰もいねえと思ったんだか、溝にむかってしゃがんでしっこ始めたんだと。

そしたら

「ちんちんちりめん、ちんちんちりめん、ちりん」

という、いい音っこが聞こえてきたんだと。

ばさまはたまげてしまって、嫁こがいなくなると、溝にむかってでだちのひもを解き、しっこしたんだと。したら、

「ちんちんちりめん」
というういい音っこでなく、
「ごぼごぼ、にじん」
というきたない音がしたので、がっくりしてしまったんだと。
とっぴんぱらりのぷう